

ポイント
3

書き言葉の文体 連用中止形

2
文体

小論文では、連用中止形がよく使われます。

A 動詞

例・大がかりな実験を行って、分析をした。

→行い

・この研究所には研究員が8人いて、それぞれ専門の仕事をしている。

→おり

・この問題については多数の研究者が意見を言っていて、結論は出ていない。

→言っており

・この食品工場では作業は人間の手を使わないで、すべて機械で行っている。

→使わず

・わたしは今までリサイクルできるものをリサイクルしないで、ただ捨てていた。

→せず

B イ形容詞

例・東京は物価も高く、人も多い。

→高く

・このレポートはデータが新しくなくて、また、わかりにくい部分が多い。

→新しくなく

C ナ形容詞・名詞

例・この実験方法は複雑であって／複雑で、また、費用もかかる。

→複雑であり

・この文章は個人的な日記であって／日記で、論文とは言えない。

→日記であり

・彼は体が丈夫ではなくて、病気ばかりしていた。

→丈夫ではなく

注意

* 「て形」を使った文がすべて連用中止形の文になるわけではありません。連用中止形が使えるのは主として次のような場合です。

1. 並列を表すとき

- ・はじめに問題があり、その後解答が書かれている。
- ・問題数は多くなく、しかも難しくない。
- ・彼女は母であり、妻であり、教師であり、詩人でもある。

2. 対立を表すとき

- ・雪の日、犬は外を走りまわり、猫はこたつのそばで寝る。
- ・この地方の気候は夏は暑く、冬は寒い。
- ・今年は国へは帰らず、日本で会社見学をする。

3. 行為の順序を表すとき

- ・データを集め、整理した。
- ・彼はアメリカへ行き、アメリカで結婚した。

* 次の場合は連用中止形になりにくいです。

1. どのような状態で動作をするかを表すとき

- ・傘をさして歩く。→× 傘をさし、歩く。
- ・傘をささないで歩く。→× 傘をささず、歩く。

2. 手段や方法を表すとき

- ・何度も書いて覚える。→× 何度も書き、覚える。
- ・石でたたいて割った。→× 石でたたき、割った。

練習 3

ぶぶん れんようちゅうけい
の部分を用中止形に下さい。

1. よく学んで、よく遊んで、そしてよく話す。彼はそんな子どもだった。
2. 彼の意見にはいろいろ問題点があって、みんなに理解されなかった。
3. 大地震のとき、わたしたちはどうしたらいいかわからなくて、ただあわてるだけだ。
4. 新しい薬が発売されて、話題を呼んでいる。
5. 携帯電話の使い方が変化して、電話をかける以外の目的で使う人が多くなった。
6. このソフトは値段があまり高くなくて、使い方も簡単だ。
7. 彼は教師であって、作家でもある。
8. 彼女はずっとボランティア活動を続けていて、日曜日も家にいない。
9. けが人はすぐ車に乗せられて、病院に運ばれた。
10. 工事は年内に完成しないで、次の年の2月まで続いた。
11. レポートはていねいに整理されていて、わかりやすく、内容もいい。
12. この作家はアメリカ人ではなくて、アメリカで育った日本人である。
13. 彼の論文の書き方が問題なのであって、考え方が間違っているのではない。
14. 「て形」の文は話し言葉的で、連用中止形の文は書き言葉的である。